

《編集・発行》
神戸市断酒会
文化部

2025年(令和7年)
7月1日火曜日

連絡先:

神戸市須磨区横尾1丁目12-1
17棟-512号 松岡方
神戸市断酒会



第26号

神戸市断酒会 令和7年度通常総会開催



開会の挨拶をする村田会長

神戸市断酒会は、令和7年度通常総会を令和7年5月18日(日)午前9時30分より、神戸市兵庫文化センター「第3会議室」にて開催しました。

総会では、すべ
ての上程議案が原
案通り承認・可決
されました。

開会にあたり、
司会の奥田淳一郎
氏(西神戸支部)より開会宣言が行

われしました。
続いて、総会の
成立要件に関する
出席状況の報告が
ありました。

会員総数41名の
うち、出席者20名、
委任状提出者18名、
計38名が出席扱い
となり、総会の成
立が確認されまし
た。

村田会長からは、
会長挨拶として、
今後の神戸市断酒
会のさらなる発展
を願う力強いメッ
セージが送られ、
出席者一同が真剣
に耳を傾けました。
その後、議案審
議に入りました。

第1号議案「令
和6年度活動報告」
松岡事務局長より
報告があり、各
支部長および分科
会代表からも活動
内容の説明がなさ

れました。

第2号議案「令
和6年度収支決算
報告」
尾崎会計より説
明があり、田中会
計監査から監査報
告がなされた後、
承認されました。

第3号議案「令
和7年度役員人事
の件」
松岡事務局長より
提案があり、原
案通り承認・可決
されました。

第4号議案「令
和7年度活動方針」
同じく松岡事務
局長より説明があ
り、原案通り承認・
可決されました。

第5号議案「令
和7年度予算案」
尾崎会計より説
明があり、こちら
も原案通り承認・
可決されました。

総会の締めくく
りとして、東海副
会長より閉会の挨拶
が行われ、令和
7年度通常総会は
滞りなく終了しま
した。(昭)

令和7年度 神戸市断酒会 本部役員

会長 村田 憲彦
副会長 東海 信司
泓上 克己
相談役 諏訪田 陽山
事務局長 松岡 一夫
事務局次長
西藤 稔和・河本 和之
下林 浩人
会計 尾崎 基紀
会計補佐 田中 健一

会計監査 和泉 昭徳 和泉 卓也

文化部
和泉 昭徳 泓上 克己
尾崎 基紀 和泉 卓也

令和7年度 神戸市断酒会 家族会役員

代表 西藤 佐知子
会計 住本 照子
会計監査 村井 世津代

令和7年度活動方針

- ・会員数の増加(アメシストの勧誘)
※例会の活性化
- ・行政・医療との関係強化
- ・第62回全国(愛知)大会、各ブロック大会、各断酒学校への積極的参加
- ・近畿朋友主権行事への積極的参加
- ・昼例会の検討(アンケートの集計結果に基づいて検討)

- ・役員会の毎月開催
- ・SBIRTSの普及促進(一般病院の相談員との連携、各区保健センターとの関係強化など)
- ・全国大会参加のための事前積立金制度
- ・研修会費の貸付制度(断酒学校、全国大会など全断連行事等への積極的参加のため)
- ・レクリエーション等々

断酒継続四十年

断酒会で表彰

令和7年4月26日、神戸市断酒会の総合例会において、西神戸支部の大尾治之氏（87歳）が断酒継続40年を迎え、表彰されました。

大尾氏は40年前、自らの生活を見直し、断酒を決意しました。奥様の協力を得ながら、その後は「継続することは力なり」と語りつつ、酒に頼らない生活を送り続

断酒40年にわたる努力と模範的な姿勢に対し、会員一同から温かい拍手と称賛が送られました。大尾氏の歩みは、断酒会員に静かな感動を与え、今後の参加者にとっても大きな希望となることでしょう。（西藤）



大尾 治之・都 夫妻

ふりりさんぽ

神戸市兵庫区

氷室神社・立江寺

鳥原貯水池

神戸市兵庫区氷室町にある氷室神社は、1800年以上の歴史を誇る由緒ある神社です。

「氷室」という名前は、古代に氷を保存していた「氷室（ひむろ）」と呼ばれる洞窟に由来しています。

この神社は、恋愛成就のパワースポットとしても広く知られ、「れんあい弁天」という別名でも親し

まれています。その理由の一つに、祀られている三柱の神様のうち、二柱が「縁結び」や「恋愛」にご利益がある神様であることが挙げられます。

平通盛と小宰相の恋物語

氷室神社の縁結びの力を象徴する逸話として、平通盛（たいらのみちもり）と小宰相（こざいしやう）の恋物語が知られています。

「愛のポスト」で願いを届けよう

訪れたらぜひ体験したいのが、「愛のポスト」への手紙の投函です。

歴史と平和を象徴する音色

すれば、あなたの想いがそっと届けられるのです。心に秘めた気持ちを言葉にするだけで、自分自身と向き合い、前向きな一歩を踏み出せる——そんな心温まる体験を、ぜひここで味わってみてください。

神戸市兵庫区北山町に位置する真言宗大覚寺派別格本山「立江寺（たちえじ）」は四国八十八ヶ所霊場第十九番札所立江寺の別院として大正初期に開創されました。

境内からは神戸市街を一望でき、四季折々の自然に包まれた静謐な空間が広がり、訪れる人々に心の安らぎを与えています。

立江寺の本尊である立江地藏菩薩は「たちえのお地藏さん」として広く知られ、寺院に訪れる人々



う）の切ない恋の物語があります。戦の前夜、2人は氷室神社で落ち合い、再会を誓いながら別れを惜しまし、通盛

を見守っています。しかし、この寺にまつて忘れられない出来事があります。それは、「空を飛んだ梵鐘」という伝説的なエピソードです。

空輸された梵鐘

立江寺の鐘楼に設置されることになった梵鐘は、京都の工房で製作されました。しかし、その搬入には一つ大きな課題が立ちました。鐘の重さと大きさから、通常の陸路での運搬は不可能であり、山地の急峻な地形を

考慮すると、他の方法を模索せざるを得なかった。

そこで考えられたのが、ヘリコプターによる空輸です。しかし、この

方法は前例が少なく、実現までには多くの障害があった。何度か折衝を重ねた結果、「山沿いに沿って運ぶ」という条件でよう

やく許可が下り、計画は実行に移されることとなりました。

摩耶山天上寺の協力



舞台からの展望



熊野神社鳥居から見える立江寺



平和の鐘

さらに大きな協力を得ることができたのは、その当時の住職と懇意にしていた摩耶山天上寺の住職の助けであった。

同寺の駐車場が運搬の中継地点として提供され、無事に京都からの梵鐘は摩耶山天上寺に到着。その後、精密な準備と万全の安全対策を講じて、梵鐘はついに立江寺の鐘楼に搬入されました。

「平和の鐘」として地域を支える音色

現在、この梵鐘は「平和の鐘」として、年末の除夜の鐘をはじめとする地域の行事に欠かせない存在となっています。その音色は時を越え、多くの人々の心に響き続け、立江寺の歴史とともに、平和を願うシンボルとして深く根付いています。

神戸の歴史を支える水源 鳥原貯水池



護岸に並べられた石臼

神戸市兵庫区にたずむ「鳥原貯水池（からすはらちよすい）」は神戸港開港に伴って、人口増加で水が必要になったことや、コレラが発生したことをきっかけに飲料水を確保するため1905年（明治38年）に、神戸市創設水道の重要な水源地として誕生しました。

貯水池を形作るのは「立ヶ畑堰堤（たちがはたえんてい）」と呼ばれるアーチ型の重力式堰堤。優美な曲線を描くその姿は、100年以上の風雪に耐えながらも今なお健在です。

堰堤は、神戸水道の創設技師・佐野藤次郎により設計され、当時としては革新的な耐漏水構造を採用した。布引五本松堰堤の教訓を活かし、海外での技術調査をもとに築かれたその設計は、後のダム建設にも大きな影響を与えました。

水と森の回遊路

鳥原貯水池周辺には自然豊かな遊歩道「水と森の回遊路」が整備され、春は桜、夏は緑陰、秋は紅葉、冬は静寂と、四季折々の風景が訪れる人々の心を癒している。周辺はバードウォッチングの名所としても知られ、年間を通じて28種以上の野鳥が観察されるとい

香煙の里

鳥原貯水池（からすはらちよすいち）。その穏やかな水面の下には、かつて香煙たなびく里として知られた「鳥原村」がありました。

鳥原村は、新湊川上流域の自然豊かな地に広がる集落で、農業とともに「線香づくり」で生計を立てる家々が多かった。村人たちは良質な水と空気を活かして、香にする木皮細末の原料粉を製造する水車が多く活躍し、水車で石うすで香木を細かく挽き、乾燥・成形する工程を家族総出で行っていた。

香り高い線香は、神戸の港を通じて京阪神方面へも出荷され、静かにその名を知られていたという。

水底に眠る里

神戸市の近代水道

計画により、その地は一転して水源地になることになり、村の98戸、住民414人は離村を強いられました。田畑、暮らし、そして香煙たなびく作業場もすべてが水没しました。鳥原村の人々は水没によって離村するにあたり、生活に使っていた石臼160個を貯水池の護岸に並べ、自らの営みと村のその足跡を残しました。今も貯水池沿いを歩けば、ひっそりと並ぶ石臼に、当時の生活の痕跡を見ることが出来ます。

(昭)

編集後記

最後までお読みいただき、ありがとうございました。今回訪れた立江寺（たちえじ）は、兵庫区・熊野神社の鳥居越しにちらりと見える赤い建物以前から気に

なっていて、「あそこからの景色はきつときれいだろうな」と、バスで通るたびに思っていた場所でした。

実際に足を運んでみると、想像以上に素晴らしい眺めが広がっていて、神戸空港を飛び立つ飛行機の姿や、大阪湾越しに関西空港まで見渡せる景色は圧巻でした。

ちなみに、「平和の鐘」の空輸時の様子は、立江寺さんのホームページ内「沿革」ページに写真付きで紹介されています。興味のある方はぜひご覧ください。

◇その後、立江寺から鳥原貯水池へ向かう道中では、道幅が狭く、傾斜も急な坂道が続きます。「ここで火災が起きたら、消防車も入れず消火が難しいだろうな」と思いながら歩いていると、まるでそれを物語るように、屋根が抜け落ち

た焼け跡が目に残りました。日常のすぐそばに、見過ごしてきた現実が静かに横たわっていることを痛感しました。

◇普段何気なく歩いている道にも、誰かの暮らしの痕跡や、語りかけてくる風景があるのだと、改めて感じた一日でした。この文章を通して、皆さまの心にも小さな発見がひとつでも届いていれば幸いです。

◇なお、今回の文章作成にあたっては、生成AI「ChatGPT（チャットジーピーティー）」を使い、言い回しの整理や表現の工夫に役立てました。非常に便利なツールではありますが、時に意図と異なる表現になることもあり、その点をご理解いただければと思います。

また次号でお会いしましょう。

(昭)

神戸市断酒会

『虹の会』第2回一日研修会

日時： 令和7年7月13日（日）
10:00~16:00

場所： 長田区文化センター
大会議室

地下鉄西神・山手線 地下鉄新長田駅

JR新長田駅
駅前広場

若松公園

長田区
文化センター

地下鉄
海岸線

阪神高速道路

国道2号線

アクセス
JR/新長田駅南側
すぐ
市営地下鉄
新長田駅南側すぐ



シングルめし

約9年前に神戸元町にあるアルニック専門クリニックで、アルコール依存症と診断されて毎日通院が始まりました。午前中に診察と初診者プログラム、午後からは洞察系教育プログラムを受けるという

毎日が始まりました。



最初の数十日間、最初の数十日間、は、昼飯は外食でしたが飽きてきて弁当を作る様になりました。

毎日通院と弁当作りが、飲酒で乱れていた生活を立て直すのに大きな力になりました。

